

西根

冬場の血液不足を解消しようとして、西根ライオンズクラブと西根ライオンズクラブは1月27日、バレンタイン献血を行いました。

この日、大更公民館など西根地区3カ所で全血献血を実施。両クラブはチョコレート50個を準備し、献血に協力してくれた人たちに贈りました。両クラブでは献血活動を推進するため、毎年2回、協力者に対し、記念品やチョコレートを贈る活動を続けています。



献血に訪れた佐々木翔さん(写真中央)にチョコを贈呈

血液不足の冬に「甘い」バレンタイン献血

にぎりたての寿司を味わってもらおうと、マックスバリユ西根店(細矢一司店長)は1月25日、西根地区の小規模通所授産施設「ポパイの家」(小野寺嘉光施設長)で実演試食会を開き、施設の利用者に寿司を振る舞いました。

全国の系列店舗の寿司職人技術コンクールで最優秀賞に輝いた同店の従業員など5人が訪問。この日を楽しみにしていた利用者は、手際よく寿司をにぎったり、巻き寿司を

寿司職人の技にビックリ、おいしさに大満足

作ったりする職人の技に驚き、拍手を送りました。

皿にきれいに盛り付けられた寿司がたくさん並べられ、利用者は寿司職人に感謝しながら、できたての寿司をおいしそうにほお張りしました。

利用者を代表して伊藤賀千代さんは「食べるのがもったいないような、きれいなお寿司をありがとうございます」とあいさつ。お寿司のお礼に利用者全員で、ハンドベルの演奏を披露しました。



マグロやサーモンのにぎり寿司などのほか、節分にちなんだ太巻きも皿に盛り付けられ、利用者たちはできたてのおいしい寿司をお腹いっぱい食べました

寺田老人クが真心ぞうきん500枚を寄付



寺田小にぞうきんを贈る遠藤三太郎会長(写真中央)と田村幸八さん(写真左)

西根地区の寺田地区老人クラブ連合会(遠藤三太郎会長)は1月20日、地域の学校などにぞうきんを寄付しました。

ぞうきんは、同会の会員280人が1人2枚ほど、丁寧に縫い上げ、約500枚が完成。このうち、寺田小学校には200枚が贈られました。手縫いで作られたぞうきんは、「丈夫で使いやすい」と児童たちに好評です。同会では、毎年ぞうきんの寄付活動を続け、今回で23回目になりました。

八幡平市

観光振興を誓い、3観光協会が合併に調印

西根町観光協会と社団法人松尾八幡平観光協会、安代町観光協会は2月16日、今年4月1日合併に向けた、合併協定・合併契約調印式を農民研修センターで行いました。

旧3町村の観光協会は昨年11月28日、3観光協会合併協議会(工藤勝治会長・西根町観光協会会長)を設立。13人の委員を委嘱し、これまで4回の会議で、合併に向けた話し合



美しい自然環境を持つ八幡平地域の観光振興を誓いがっちり握手する皆さん(写真左から田村市長、千葉振興局長、工藤会長、戸張会長、盛内会長)



合併協定書と契約書に調印する3観光協会会長

いを進めてきました。

合併協定は、合併の期日や名称を含む17項目。今年4月1日に合併し、名称は「社団法人八幡平市観光協会」とすることとし、事務所は現在の松尾八幡平観光協会がある、柏台の松尾八幡平ビジターセンターに置くこととしました。

調印式では、西根の工藤勝治、松尾八幡平の戸張昇、安代の盛内源栄各観光協会会長が登壇し、合併協定書と合併契約書に署名・押印しました。

立会人として、田村正彦市長、千葉英寛盛岡地方振興局長のほか、合併協議会委員がそれぞれ署名。豊かで美しい自然環境を生かした、八幡平地域の観光振興を誓いました。

遭難者の命を救うため、八遭隊が冬山訓練

冬山の遭難事故に備え、八幡平遭難対策委員会捜索救助隊(高橋時夫隊長・隊員25人)は2月5日、裏岩手連峰大深岳周辺で救助訓練を行いました。

訓練は冬山登山の技術向上や、地形の習熟など遭難救助体制を整えることが目的。この日、隊員10人と岩手警察署から3人が参加しました。

隊員たちは、下倉スキー場から大深山荘まで冬山を往復しながら、負傷者搬送訓練や通信訓練なども行いました。



冬山の遭難事故に備え、厳しい訓練をする捜索隊員

紫薫枕を贈り続け42年。平高家庭クに表彰状



小さな親切実行章を受ける山内麻祐子会長(写真中央)

毎年、市内の長寿会でお年寄りに手作り枕を贈っている平館高等学校家庭クラブは2月6日、「小さな親切」運動県本部の実行章を受けました。

同クラブは、枕のプレゼントを昭和39年から始め、42回継続。「紫薫枕」の名称で親しまれ、生徒が心を込めながら一つ一つ手縫いで仕上げられています。同クラブ会長の山内麻祐子さんは「この章を励みにして、伝統の活動を継続していきたい」と話しました。

松尾

八幡平ゆきまつりで大自然をまるごと満喫

雪とふれあひながら自然豊かな八幡平を楽しんでもらおうと第3回八幡平ゆきまつりのメインイベントが2月18、19の両日、八幡平温泉郷かまくら広場で行われました。初日は、かわいらしい洋服を身に着けた犬のファッションコンテストなどを開催。夜には雪あかりウオークや花火も行われ、観光客などは幻想

的な光の共演に酔いしれました。2日目は、七滝を鑑賞する雪上トレッキングや、ゲーム大会などが行われたほか、2日間で合計550食分のホロホロ鳥汁が振る舞われました。ゆきまつりは昨年12月24日に開幕。3月下旬までの毎日(午後9時まで)、イルミネーションの点灯などが行われています。



会場には、かまくらや雪像のほか、人気アニメ「トトロ」の巨大雪上滑り台もあり、子どもたちは歓声を上げながら、そり遊びを楽しみました

全国の体力自慢が県民の森を駆け抜ける

鉄人たちが雪山で体力とスピードを競う第5回全日本スノーシューレースは2月12日、県民の森で開かれました。

この日は、雪山を西洋かんじきで走る「スノーシュー」、マウンテンバイクで1時間半走る「エンデューロ」、さらに持久走を加えた「ウインタートライアスロン」の3種目を開催。県内外から体力自慢の選手延べ82人が出場し、雪道に足をとられながらも、懸命にゴールを目指しました。



新雪の中をスノーシューで駆け抜ける選手たち

悪い鬼はもういないよ。園児と節分交流会

寄木保育所年長組の園児15人は2月3日、松尾デイサービスセンターを訪れ、通所者と交流を深めました。

交流会では園児たちが、この日のために練習してきた踊りやヨサコイソーラン節などを披露し、おじいさんやおばあさんを楽しませました。節分のこの日、同センターに悪い鬼がいると報告を受けた園児たちは、職員が扮する鬼を目掛けて一斉に豆をまき、見事に退治しました。



踊りを披露して通所者を楽しませる園児たち

全国の障害者スキーヤーが安比で熱戦展開

第35回全国身体障害者スキー大会安比大会は2月16日から18日までの3日間、安比高原スキー場を舞台に開催されました。同スキー場での開催は、平成11年に続き2回目となります。

大会には全国から選手、介助者など153人が出場。選手は、障害の程度で10クラスに分かれ、障害に応じて「アウトリガー」(ストックの先に小さなスキーがついた用具)や

「チェアスキー」(1本のスキーの上にはすをセットしたもの)を使い、大回転やタイムチャレンジレースなどの競技で熱戦を繰り広げました。また、初級者を対象にしたスキー講習会も同時に開催されました。

閉会式終了後に行われた交流会では、安代小学校(種市郁雄校長、児童209人)6年生がマーチングを披露し、選手たちと交流を深めました。

新社会福祉協議会へ結いの精神引き継ぐ

2月末で解散した安代町社会福祉協議会(二ヶ田誠一会長)の思い出の集いは2月11日、新安比温泉で開催されました。

関係者190人が出席。47年間の活動をまとめた記念誌や、テレビで取り上げられた映像などで、これまでの歩みを振り返りました。

同福祉協議会は昭和34年に発足。同40年に社会福祉法人となり、住民一丸となった福祉活動を展開してきました。



スノーバスターズやふれ合い弁当などこれまでの活動を振り返った思い出の集い

誘拐されないうちに防犯教室を開催

あしる保育所では、新町幼稚園の園児と一緒に1月26日、岩手警察署(吉田修署長)の署員5人を招いて防犯教室を開催しました。

園児たちは、署員からの絵本の読み聞かせ、手品を楽しんだ後、誘拐されないために「知らない人についていけない、知らない人の車に乗らない、大声で助けを求め、すぐに逃げる、警察に知らせる」の5つの約束事を覚え、みんなで復唱しました。

安代



吉田修署長による絵本の読み聞かせに熱心に耳を傾ける園児



アルペン競技男子ジャイアントスラローム中級タイムチャレンジレースに本市から出場した工藤義則選手(大更)